

3. 平成30年度秋季「防音勉強会」 —「防音対策の初歩」—開催報告

一般社団法人日本音響材料協会
(Acoustic Materials Association of Japan)

平成30年度秋季「防音勉強会」(講師：日本音響材料協会技術顧問・宮尾健一氏、於：ローレル三田会議室)について報告させて戴きます。今回も定員を超える多くの方に参加して戴き、11月8日(木)と11月14日(水)の2回に亘って開催致しました。

当協会の「防音勉強会」は、「ゼロからのスタート」として、「白紙の状態から防音の技術情報を理解できる」ように、実務経験50余年の講師と一緒に勉強するものです。また、受講対象は、建材メーカー、ディベロッパー、防音材開発・営業関係者、音響コンサルタント、建築設計者、建築施工者、建築系学生などで、防音の知識を学びたいビギナーを対象としています。毎回、「防音」について、初歩から実務知識の基本を会得したい方々が参加されます。

今回は、防音材メーカー開発関係者、ディベロッパー、総合建設業、音響設計・施工者、測定機器メーカー、工場防音関係者、情報産業、電子材料メーカー、など多彩な分野の方々が受講して下さいました。

講師は、ユニークなパワーポイントにより、各種モデルなどを用い、「防音対策の基本」、「実務上の留意事項」などを解説していました。すなわち、とかくわかりにくい単位「デシベル」についての特徴と、それを基本とした「防音対策の考え方」についての説明をはじめ、「パターン別防音対策の違い」などの事項を、数式によらず、理解しやすいように解説していました。

内容は、意外とわかっていない「防音の常識・非常識」、よく防音対策を間違える「空気音と固体音」をはじめ、遮音・吸音・制振・防振の基礎知識と防音対策への適用などを実務面から説明していました。

履修項目としては、ピアノの防音を例にとった防音対策手法、聴感の特徴と騒音計(サウンドレベルメータ)A特性の関係、「低い音」と「低周波音」の意味など、さらに、一般に、手軽な防音対策と考えられているアクティブノイズコントロールの実際のシステム・効果等について示していた。

また、防音関係のグラフの見方・意味、周波数別に

行う遮音計算など、実務面から事例を用い解説していました。

集合住宅において、特に問題の大きい「重量床衝撃音」について、衝撃音発生メカニズムから、対策の留意点などを平易に説明していました。

「復習の時間」では、履修項目の重要な事項を再度解説。

「何でも質問の時間」では、多くの質問を戴きました。Qの例を次に掲げます。これらについては、会員頁Q & Aコーナーに順次掲載してゆく予定。

〔質問事項〕

- ・マンションにおける苦情の例(床衝撃音、楽器練習室・オーディオルーム)
- ・軽量床衝撃音対策における緩衝材
- ・コインシデンスと共振の違い(本号会員頁4.Q Aコーナーに掲載)
- ・道路際障壁の効果の実測法
- ・工場作業音対策
- ・振動で、ゆれと固体音の区別
- ・オクターブバンド、独立間柱、C特性についての実務上の意味など

「防音勉強会」は、防音の知識が白紙のビギナーを対象としたものですが、当協会では、毎年「音響基礎講習会(7月予定)」と「技術講習会(11月予定)」を開催しており、これらにもつながる勉強会です。

今後も「防音の初歩を学ぶ場」として、「防音勉強会(春季、秋季年2回)」を開催してゆく予定です(2019年度春季は、5月下旬開催予定)。



*当協会事務所移転に伴い、2019年度春季より、開催場所を下記に変更致します(H Pに掲載)。

- ・東京都新宿区市谷薬王寺町
レスポワール市ヶ谷会議室